神戸市立高校 「ミライ図」

～魅力倍増に向けて～

KOBE MUNICIPAL HIGH SCHOOLS

2026 年 11 月

神戸市教育委員会

Ⅰ　はじめに

1 策定の趣旨

高校授業料無償化の影響で私立高校の人気が高まり、公立高校の志願倍率が全国的に低下する中、市立高校が率先して公立高校としての役割を果たしていくために、本プランを策定することとしました。

近年、デジタル技術や、生成 AI の急速な発展などにより、社会や産業の構造が大きく変化しています。こうした、将来の予測が難しい時代においては、自ら課題を発見し、他者と協働しながら新たな価値を創造する力がこれまで以上に重要となっています。

文部科学省においても、2026 年 2 月に『高校教育改革に関する基本方針～2040 年に向けた「N-E.X.T.ハイスクール構想」～』が示され、2040 年を見据えた高校教育改革の方向性として、主体的に問いを立てる力、協働して価値を創造する力、産業構造の変化に応じた理数・デジタル的な素養の育成が重視されており、高等学校には未来社会を支える人材の育成が求められています。

神戸市においては、これまで学識経験者、企業関係者、保護者、生徒の参画も得ながら、「これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議」や「総合教育会議」を通じて神戸の市立高校がどのような役割を果たすべきか議論を重ねてきました。

これから子どもたちが生き抜く未来では、社会が直面する課題について、AI 等の新たな技術を活用しグローバルな視野で解決するための、確かな知識や技術、探究的思考力を持つ実用型の人材の育成が必要です。

大都市かつ市民に近い基礎自治体でもある神戸市には、ものづくり、医療、港湾等の多様な産業が集積し、こうした企業や大学等と深く連携することで、実用的な教育を提供することができます。さらに神戸空港の活用など国際都市ならではのグローバルな学びや経験の機会の充実にも取り組むことができます。

また、市立小・中学校での教育を通じて子どもたちの成長や多様なニーズを的確に把握し、その状況に応じて教育環境を柔軟に変化させることで、多様な生徒の進路先として選ばれるよう取り組むことは、学びの保障の観点からも重要です。このような強みを生かしながら、市立高校はこれまで以上に大きな役割を担っていく必要があります。

本プランでは、こうした社会的要請とこれまでの議論を踏まえ、神戸市立高校の目指すべき方向性を明らかにし、未来社会を主体的に切り拓き、地域や世界で活躍することのできる人材の育成を着実に推進していきます。

Ⅱ　計画概要



■　KOBE NEXT LEARNING　～未来の学びの先駆けとなる神戸市立高校へ～

神戸市立高校が未来の学びの先駆けとなるために、国際都市としての多様性、開港以来培われた進取の気風、そして豊かな自然環境や地域・企業・大学などの地域資源を有する神戸ならではの特性を活かして、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす個別最適な学びと、協働・探究による深い学びを推進し、これからの時代に求められる資質・能力を育成します。

■　計画期間

2027（令和 9）年度から 2031（令和 13）年度までの 5 年間とし、計画期間内での早期実現を目指します。

■　神戸市立高校が目指すべき、３つの方向性

2040 年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化し、産業構造の変化が進む中、現在の人材供給トレンドが続けば、事務職等いわゆる文系人材は余剰となり、一方でデジタル技術や高度な専門知識を有する理系人材への需要は一層高まることが見込まれています。

これからの社会において、どのような道を選択したとしても必要とされる理系素養や AI に代替されることのない能力・個性を伸長させるとともに、グローバルな視点と地域への愛着を兼ね備えた、世界や地域で活躍することができる人材の育成を目指します。また、神戸ならではの多様な地域資源を活かして、将来の産業構造の変化に対応するための実用型教育を充実させます。さらに、生徒が未来社会を力強く切り拓くことができるよう、主体的で多様な学びを支え、コミュニケーションが活性化し、ウェルビーイングの向上が図れる教育環境を整備します。

1.　AI 時代に活躍するグローカル・イノベーション人材の育成

変化の激しい社会において必要となる、多様な他者と協働しながら新たな価値の創造に挑戦する力や、AI に代替されない共感力や対話力、課題発見・解決力等を伸長し、世界（グローバル）や地域（ローカル）で活躍することのできるグローカル・イノベーション人材を育成します。

2.　神戸の地域資源と連携した実用型教育の充実

将来の産業構造の転換に対応できる人材を育成するため、神戸に集積する多様な企業や大学等との連携を通じた探究学習やキャリア教育、理系分野の裾野拡大など、生徒一人ひとりが将来に必要な知識や能力、興味・関心を得られるような実用型教育の充実を図ります。

3.　心地よく学びコミュニケーションが活性化する環境の整備

安全・快適・清潔で心地よく学ぶことのできる環境や、対話や協働を促す学習空間を創出することで、人と人との交流を深め、多様な価値観に触れ、認め合いながら、生徒の豊かな成長と心身の健康を支える教育環境の充実を図ります。



8 校すべてが JR・市営地下鉄・各私鉄の駅から徒歩圏内

■　目指す方向性を実現するための、４つの視点

神戸市立高校が目指すべき方向性を実現するためには、教育内容と教育環境の両面から改革を進める必要があります。

そのため、社会の変化や生徒のニーズに応じた学科の再編と学習内容の充実を図るとともに、教育の質を支える教員の能力・資質向上を推進します。また、少子化を見据えた適切な学校規模と教職員配置を実現し、持続可能な学校運営を進めます。

さらに、教育施設・設備のリニューアルを通じて、生徒の主体的な学びと多様な交流を支え、安全で快適な学習空間を整備し、教育環境の充実を図ります。

視点 1　学科の再編や学習内容の充実

探究学習やキャリア教育、AI・DX に関する学習環境を充実させるとともに、学校間連携を推進し、難関大学進学を含めた多様な進路希望に対応するサポート体制を充実し、生徒一人ひとりの可能性を伸ばす学習環境の実現を目指します。

（１）理数、AI、データサイエンス教育の充実

2040 年には、AI・ロボット技術の発展や産業構造の変化が進む中、文系人材は余剰となる一方で理系人材の需要は一層高まる可能性があると指摘されています。AI やデータ活用が当たり前となる社会では、どのような道を選択したとしても理系素養や情報活用能力がこれまで以上に求められます。そのため、新たな理数科目の開設等を通して、理数、AI、データサイエンス分野への関心を高めます。

▽　「理数探究基礎」科目の開設や、AI、データサイエンス関連の授業充実

▽　小中高を通じた理系分野を目指す生徒の裾野拡大

・科学技術高校や医療産業都市の最新設備で、市内小中学校と連携した探究学習

・大学や理系企業と連携した共同実験・職場体験

（２）普通科改革

大学や企業では幅広い知識を持った人材が求められており、普通科においては、文系・理系の枠を超えた学びを充実させることで、様々な分野の基礎知識等を習得できるようにします。探究学習等の文理横断学習や単位制の導入により、生徒一人ひとりの興味関心に応じた学びを実現します。

▽　普通科の単位制移行や、「（仮）グローバルサイエンス科」の新設を検討

▽　文系科目等の授業において、AI やデータ活用、デザインなどの要素を盛り込む

（３）キャリア教育の強化

地域や企業、大学、海外等との連携を深めることで、社会が抱える課題を他者と協働して発見・解決する実用的な力を着実に育成するとともに、生徒が将来の職業や生き方について考える機会を充実させます。神戸の産業や研究機関、港湾都市としての国際性を生かした体験活動を通じて、自分らしい進路選択と主体的なキャリア形成を支援します。

▽　商工会議所等と連携した企業課題解決型探究学習の検討

▽　海外提携校や神戸空港海外就航都市と連携したフィールドワークやオンライン交流の充実

（４）学校間連携

市立高校それぞれの特色を生かしながら、各校の特徴的な授業を相互に受講できる仕組みや単位互換について検討を進めます。他校の専門的な学びにも参加できるようになることで、神戸市立高校全体で、生徒の興味・関心に応じた学びの提供を目指します。

▽　市立高校各校の特色ある学びへ相互参加できる仕組みの構築

（スーパーサイエンスハイスクール〈SSH〉事業、海外交流、ビジネス実践、企業実習等）



視点2 教員の能力・資質向上

社会の急激な変化に対応した教育を実現するため、教員の専門性と指導力の向上を図ります。外部人材との連携や研修・研究活動を充実させることで、教育現場での実践力や対応力を高めるとともに、市立高校の強みである生徒に寄り添った親切な関わりを大切にします。

（１）外部人材の活用

大学教員や研究者、企業人、地域で活躍する人材など、多様な専門家の力を教育活動に取り入れます。生徒の探究活動やキャリア形成のさらなる支援を充実させるため、教員の探究活動における資質や実践能力の向上を図ります。

▽　外部プロフェッショナル人材を活用した、探究学習での協力先開拓・マッチング、伴走支援

（２）探究活動の高度化に向けた研修・勉強会の実施

探究学習においては、教員は知識を教えるだけでなく、生徒が自ら問いを立て、挑戦できる環境を整える伴走者になることが求められています。教員が探究活動をより効果的に支援できるよう、課題設定や調査・分析、発表指導などに関する研修を充実させ、実践的な指導力の向上を目指します。

（３）各校の特色を深化させる専門性の向上

各校が持つ理数、国際、商業、工業、芸術などの強みをさらに伸ばすため、教員の専門性向上を進めます。大学・大学院や企業等が実施する研修・講座への参加を支援する制度の構築や、優れた実践やノウハウを市立高校間で共有することにより、神戸市立高校ならではの特色ある教育を発展させ、学校の魅力向上につなげます。

（４）小中高の連続性や生徒に寄り添った親切な関わりの充実

神戸市は、これまでも小学校から中学校、高校まで一体的な方針のもとで、子供たちの学びを切れ目なく支えてきました。これからも、小中高校を通じて学びのつながりに重点を置き、一人ひとりの成長や個性に寄り添った関わりを大切にします。

視点 3 施設・設備のリニューアル

（１）学習環境・設備の高度化

AI の進化や DX が進展する社会に対応し、生徒が主体的に学び、課題解決に取り組める環境を整備します。探究ルームや ICT 機器、専門分野の先端設備、学校間連携の拠点を充実させることで、神戸の大学や企業、地域ともつながりながら、多様で実践的な学びを実現し、将来につながる力を育みます。

① 探究ルーム等の設置

これからの社会では、自ら課題を見つけ、仲間と協力しながら解決する力が求められます。議論や実験、発表など探究学習を推進するための探究ルームや、図書館機能と協働学習機能を融合し、生徒が自由に集いコミュニケーションを取れるラーニングコモンズを整備し、学校や学科を超えた交流や共同研究を進め、主体的で創造的な学びを実現します。



画像はイメージ

② ICT 機器の整備



画像はイメージ

探究ルームやラーニングコモンズにおいて、生徒の主体的・協働的な学びを支える ICT 機器や関連設備の整備を進めます。調査・分析・発表などの探究活動に活用できる環境を充実させるとともに、多様な学習形態に対応した機能的で柔軟な学習空間の整備を図ります。

③ 工業・商業分野の最先端機器導入

産業界で必要とされる技術力と、それを駆使できる人材を育成するため、先端機器を用いた実社会に近い学習環境を整備し、将来の進学や就職につながる専門的な力を身に付けます。



画像はイメージ

３Ｄスキャナー

※形状や寸法を高精度に測り、三次元化する工業機器

④　学校間連携を行う遠隔交流拠点の設置



５ページの（４）に記載した学校間連携の実現に向け、「神戸ならではの学習」や、神戸市立高校それぞれの特色を生かしながら連携する「異分野融合型」の教育を行うための、学校間連携ができる遠隔交流拠点とそれに必要な機器を整備します。

（２）学校空間の安全性確保・快適性向上

生徒が毎日安心・安全に学校生活を送り、意欲的に学べる環境を整えるため、空調設備やトイレなどの生活環境の改善を進めます。また、交流スペースや運動環境の充実を図ることで、生徒同士のつながりや主体的な活動を促し、見違えるような学校づくりを目指します。

①　空調の整備（体育館、実習室等）

神戸市立高校全校の体育館空調を抜本的に強化します。また、実習室等への空調整備を進めます。授業や部活動、学校行事を快適に実施できるだけでなく、熱中症予防や災害時の避難所機能の向上にもつながり、生徒と地域の安心を支えます。

②　人が集う、交流空間の創出

生徒が気軽に集まり相談や交流ができる屋外空間やフリースペースを整備します。これにより、学年や学科を超えたつながりが生まれ、探究活動や自主的な学びが活性化するとともに、生徒の居場所づくりにもつなげます。





③　トイレ空間の美装化

生徒がより快適に学校生活を送ることができるよう、明るく清潔で使いやすいトイレへ改修を進めます。





④　グラウンドの人工芝整備

安全で快適な運動環境を確保し、体育や部活動をより充実させるため、人工芝化について学校事情を考慮し検討していきます。雨天後でも利用しやすくなるほか、けがのリスク軽減も期待できます。生徒が思い切り活動できる環境を整え、景観的にも美しく愛着心を醸成できる学校を目指します。



視点4　生徒数の減少に対応した適切規模での学校運営

少子化による生徒数の減少を見据え、教育効果と学校運営の持続可能性を両立する適切な学校運営のあり方を検討していきます。

（１）生徒数減少を見据えた学級数の変動

少子化による急激な生徒数の減少を見据えるとともに、将来的な市民、企業、大学等のニーズの変化も踏まえ、各学校が充実した教育を提供できるよう、計画的に学級数を変動させます。

（２）教員配置の最適化

学科の再編や学習内容の充実にあわせて教員を効果的に配置し、生徒の多様な学習ニーズに応じた授業や指導の充実を図ることで、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな学習支援を実現し、学力向上と主体的な学びの推進につなげます。

（３）定時制昼間部の充実

不登校経験のある生徒や学び直しを希望する生徒の増加等により、昼間の時間帯のニーズが高くなっていることから、授業時間帯の見直し等、生徒が自分のペースで学べる環境を整備し、将来の自立や社会参加につながる支援を進めます。

▽　夜間部の見直し及び昼間部の拡充検討

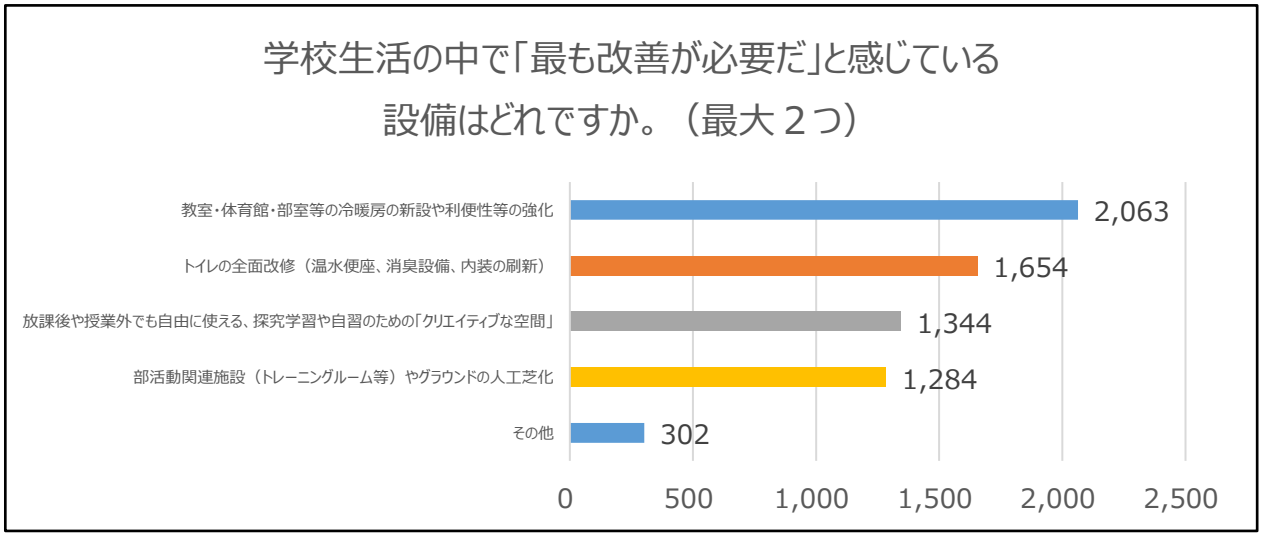
▽　弾力的な修業年度の検討

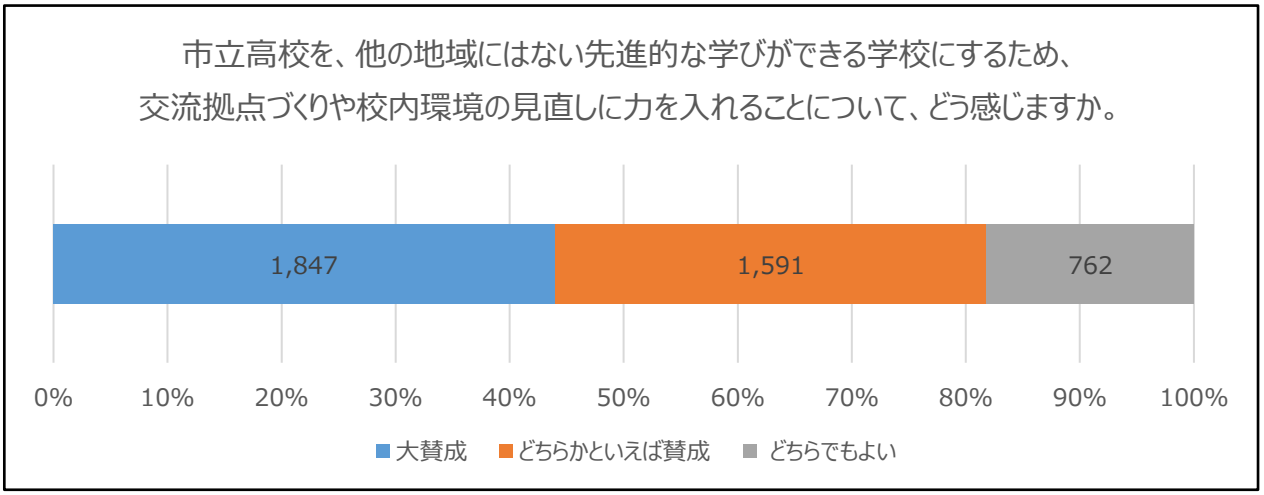
【参考資料】アンケート結果

高校生や保護者の皆様からの多様な意見を参考とするため、2026 年 7 月、市立高校に通う生徒と、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの児童生徒を持つ保護者の皆様にアンケートを実施し、多くの回答をいただきました。

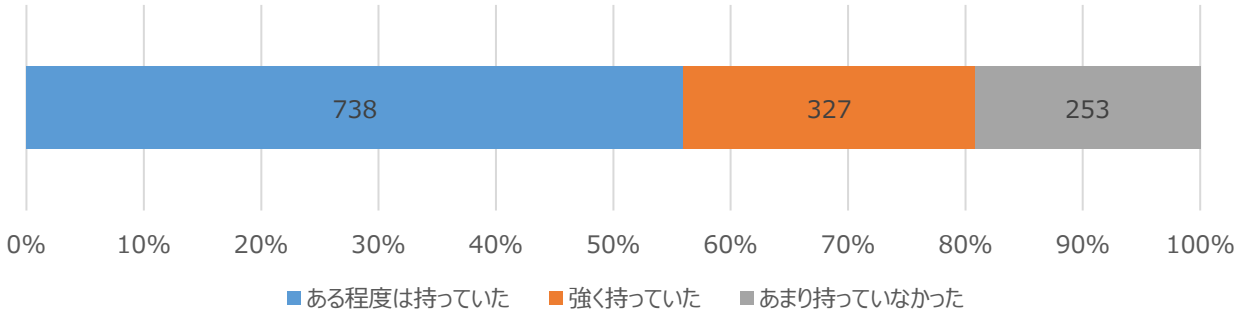
≪生徒アンケート≫

- ■ 対　　象：神戸市立高校に通う生徒(1-4 年生)
- ■ 実施時期：2026 年 7 月
- ■ 回 答 数：4,200 件

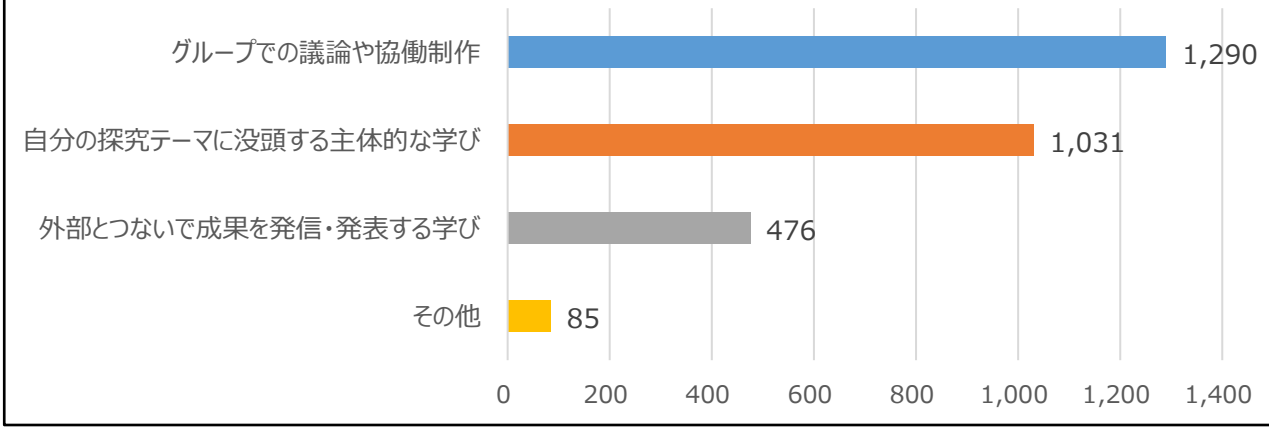




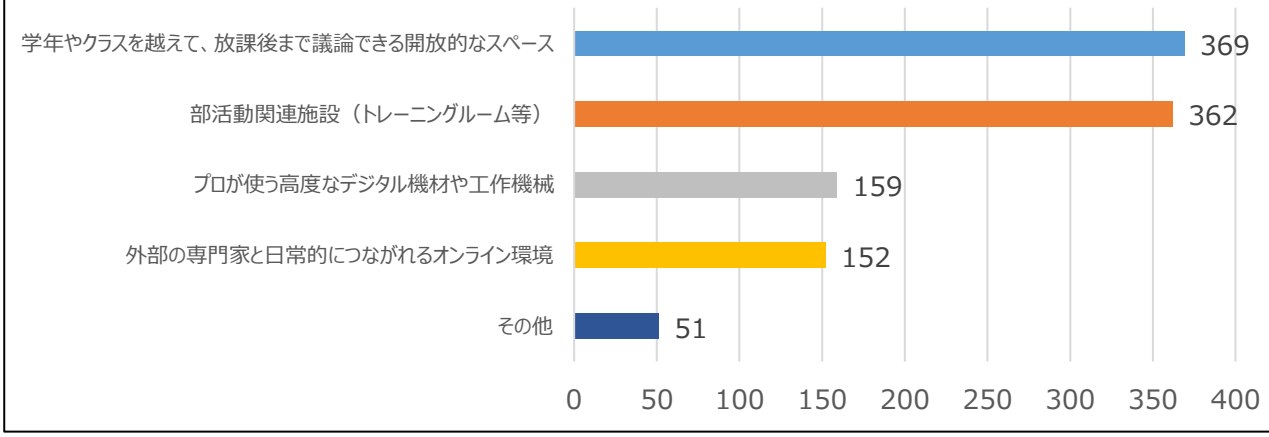
入学前、市立高校には「自分のやりたいことができる施設・設備」が
あるというイメージを持っていましたか。



学校の空き教室や廊下が「フリースペース化」された場合、
どのような学びが増えると思いますか。



入学して初めて気づいた、あなたの「好き」を突き詰めるために足りない環境
は何ですか。（最大２つ）

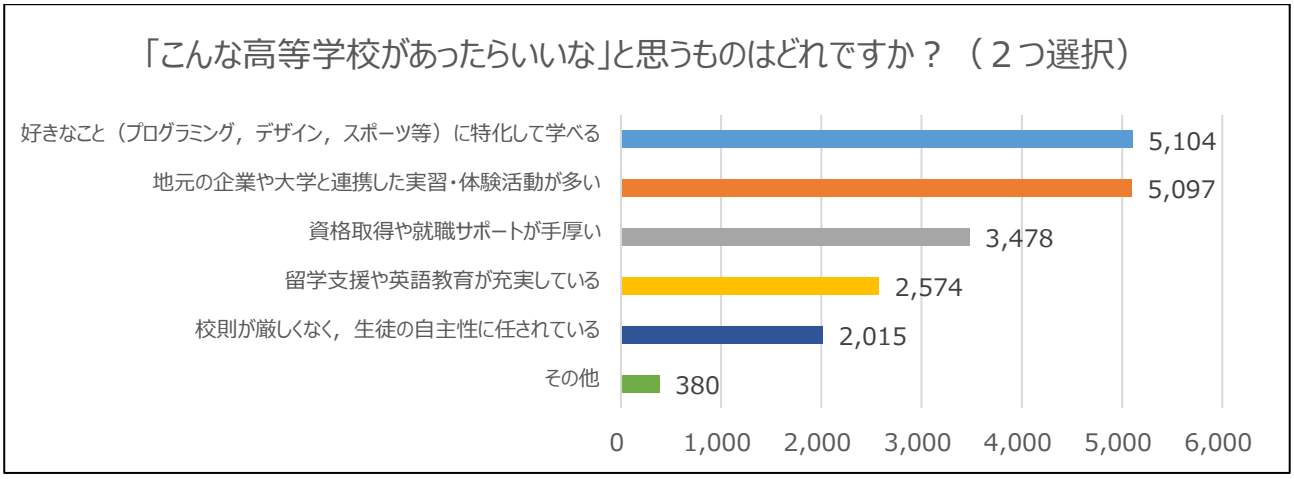


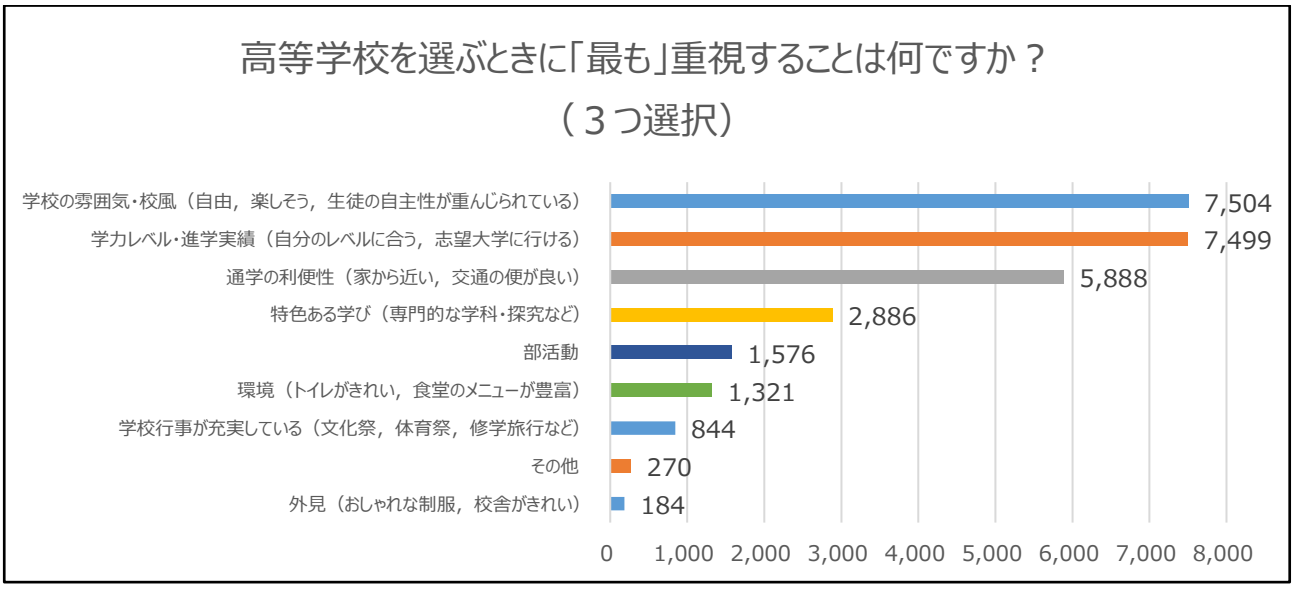
≪保護者アンケート≫

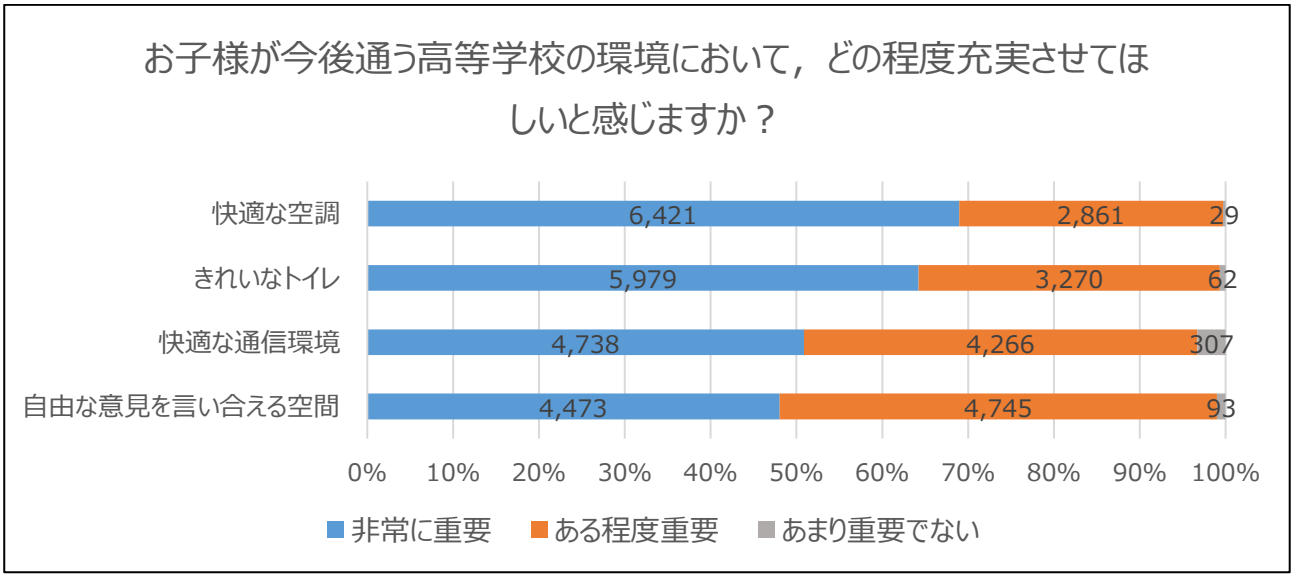
■　対　　象：神戸市立小学校・中学校に通う児童生徒の保護者

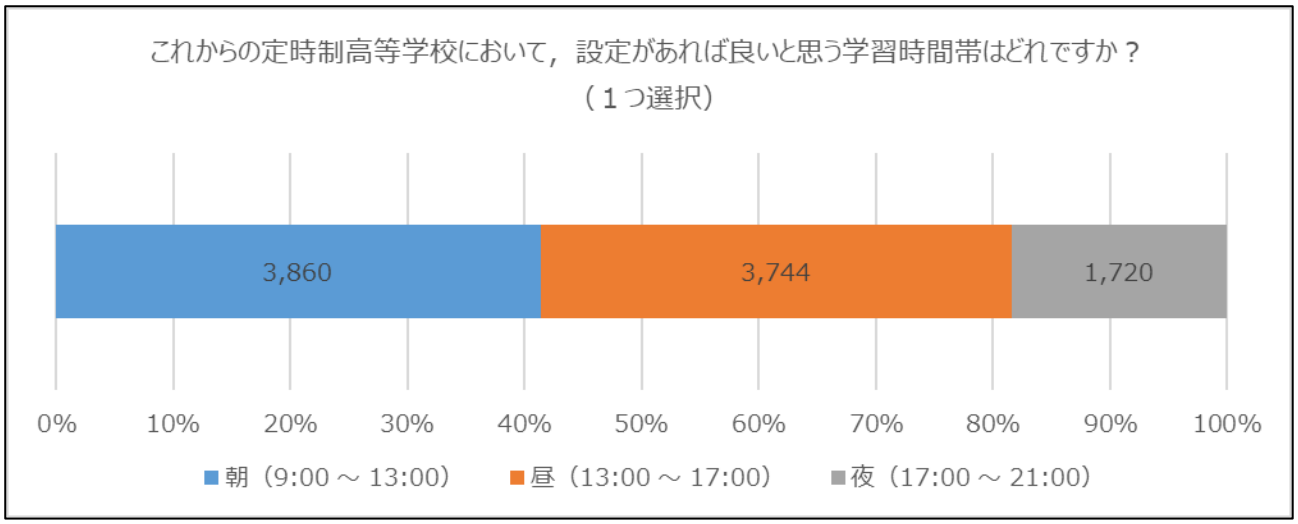
■　実施時期：2026 年 7 月

■　回 答 数：9,324 件









【参考資料】有識者ヒアリング

今回の計画にあたり、学識者ならびに企業の方々に対しヒアリングを行いました。

ヒアリング者名簿（敬称略・50 音順）※肩書はヒアリング時点

甲南大学フロンティアサイエンス学部准教授	臼井　健二
学校法人河合塾学校教育サポート本部 中部近畿営業部近畿営業 A チームチーフ	亀井　　昇
甲南大学理工学部教授	茶山　健二
神戸国際大学経済学部教授	中村　智彦
大阪教育大学教育イノベーションデザインセンター教授	仲矢　史雄
京都大学大学院教育学研究科 教育学環専攻教育・人間科学講座教授	西岡　加名恵
奈良先端科学技術大学院大学理事	西村　いくこ
神戸薬科大学特任教授	安岡　久志
シスメックス株式会社取締役	吉田　智一
神戸商工会議所	
こうべ産業・就労支援財団	